

令和4年度神奈川県立新羽高等学校不祥事ゼロプログラム検証結果

新羽高等学校は、「教育委員会不祥事ゼロプログラム作成方針」に基づき、事故・不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり「不祥事ゼロプログラム」を策定・実施し、達成状況について検証を行った。

1 実施責任者

不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長・教頭がこれを補佐する。

2 取組課題・目標・実施結果・達成状況

	取組課題	目 標	実 施 結 果	達成状況
1	法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	法令違反、服務規律違反を行っている職員ゼロを目標とする。	(1) 職員会議等において、神奈川県公立学校教職員の倫理に関する指針を配付し確認するとともに、それに則り行動するように努めた。 (2) 互いの声かけや助け合いを習慣化し、学年・グループ等のリーダーとの連携を図り小さな変化を見逃さないように努めた。 (3) 職員として、公務内外において、常に高い倫理感を持ち、自身の行動を律し、不祥事防止を徹底するように努めた。 (4) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「服務規律の遵守」についての研修を行った。 (5) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「コンプライアンス意識の醸成」についての研修を行った。 ※ 事故はゼロだった。	A
2	職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	パワハラ、セクハラ、マタハラ等を行っている職員ゼロを目標とする。	(1) 日ごろの発言や行動に注意し、継続的に職員に注意喚起を行い、職員のパワハラ・セクハラ・マタハラ等各種ハラスメントに対する意識啓発の徹底を図った。 (2) 職場内のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）を防止するため、風通しの良い職場環境を整備した。	A

			<p>(3) 「ハラスメントのない職場づくりのために」を用いた研修を行った。</p> <p>(4) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「わいせつ・セクハラ行為の防止」についての研修を行った。</p> <p>(5) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「職場のハラスメントの防止」についての研修を行った。</p> <p>※ 事故はゼロだった。</p>	
3	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を行う職員ゼロを目標とする。	<p>(1) 生徒の心を傷つけるような言動がないよう、日常の指導において細心の注意を払うとともに、生徒のセクハラに対する意識の啓発を行った。また、万一セクハラを受けた時の対処法と校内の相談しやすい環境整備を行った。</p> <p>(2) 教科準備室等の適切な利用を徹底した。準備室や教室の窓をふさがないようにするなど、外から見えるような準備室内の配置を行った。</p> <p>(3) 生徒に個別指導を行う際は複数で指導に当たり、密室での指導を避ける等十分配慮した。</p> <p>(4) 生徒とのSNS等の利用禁止を徹底し、生徒・保護者へのスマートフォン・携帯電話等による、電子メールの使用については、必ず公務アドレスを使用するようにした。</p> <p>(5) 「ハラスメントのない職場づくりのために」を用いた研修を行った。</p> <p>(6) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「わいせつ・セクハラ行為の防止」についての研修を行った。</p> <p>(7) 生徒及び教職員へアンケートを実施し、生徒及び教職員への意識啓発を図った。</p> <p>※ 事故はゼロだった。</p>	A

4	体罰、不適切な指導の防止	体罰、不適切な指導を行っている職員ゼロを目標とする。	<p>(1) 生徒への対応は、複数対応を徹底し、組織的なサポート体制を構築し、適切な情報共有と管理に努めた。</p> <p>(2) 教科準備室等を密室にせず適切な利用を推進した。</p> <p>(3) 生徒の問題行動に対する適切な対応について研修会を行った。</p> <p>(4) 職場において、相手の人権や人格を傷つける態度や発言を防止するため、人権研修会を実施し、互いに指摘しやすい環境を整備した。</p> <p>(5) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「体罰、不適切な指導の防止」についての研修を行った。</p> <p>(6) 生徒及び教職員へアンケートを実施し、生徒及び教職員への意識啓発を図った。</p> <p>※ 事故はゼロだった。</p>	A
5	定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱い、入学者選抜に係る事故防止	定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱い、入学者選抜に係る事故ゼロを目標とする。	<p>(1) マニュアル等を厳守した適切な事務処理の徹底及び職員同士の相互チェック機能の強化を図るとともに、事務処理の仕組の見直しを行った。</p> <p>(2) 採点や入力等の点検体制を強化し、採点・入力ミスを起こさないようにした。</p> <p>(3) 適正な成績処理を行い、通知表・調査書など書類発行までの流れを確立する。</p> <p>(4) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「定期試験・成績処理の事故防止」についての研修を行った。</p> <p>(5) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「入学者選抜の事故防止」についての研修を行った。</p> <p>※ 定期試験においてヒヤリハット事案が発生した。 当該教科及び担当グループで検証を行い、学校全体で再発防止のための研修会を行った。</p>	B

6	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報等の管理、情報セキュリティ対策に係る事故ゼロを目標とする。	<p>(1) 日常的に様々な個人情報を扱っていることを認識し、ルールに則り個人情報の適切な管理を徹底した。</p> <p>(2) 業務上やむを得ず個人情報を持ち出す際は、事前・事後に管理職の許可と確認を得るように徹底した。</p> <p>(3) 携帯電話やスマートフォン等の番号やアドレスを取得する場合は、校長承諾の上、保護者の了解をとり、適切な管理と使用後の廃棄等確実にを行うようにした。</p> <p>(4) 答案等の誤廃棄を防ぐため、試験開始時から生徒に答案を返却するまでの期間は、シュレッダーの使用を禁止した。</p> <p>(5) 行政文書は、保存期間の目安に基づき適切な保存を行うとともに、保存期間が終了した文書は速やかに廃棄するようにした。</p> <p>(6) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「児童・生徒の個人情報の取扱い」についての研修を行った。</p> <p>(7) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「個人情報の適切な取扱い、情報セキュリティ」についての研修を行った。</p> <p>※ 第一期分授業料の再口座振替案内の誤送付が1件発生した。 原因と再発防止策を全職員で共有し、再発防止の徹底を図った。</p>	B
7	交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故、酒酔い・酒気帯び運転、交通法規違反を行っている職員ゼロを目標とする。	<p>(1) 年間をとおして、交通事故に係る新聞記事や職員啓発資料をもとに注意喚起を図り、法規を遵守することを全職員に徹底した。</p> <p>(2) 日ごろから軽微な違反も起こさないよう、職員一人ひとりの意識向上を図った。</p> <p>(3) 万一事故が起きた場合は、迅速な対応・報告を行うよう徹底した。</p> <p>(4) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「飲酒運転の根絶」についての研修を行った。</p> <p>※ 事故はゼロだった。</p>	A

8	業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	教職員が情報共有し、相互チェック体制・業務協力体制をとり、円滑な業務執行ができることを目標とする。	<p>(1) 日々のコミュニケーションや、グループ会議・学年会議・教科会議を通して、情報共有と、相互チェック体制・業務協力体制の構築を図った。</p> <p>(2) 外部への回答や文書送付等の際は、複数による点検を行い、提出期限に余裕を持って計画的に業務を遂行するように努めるとともに起案・決裁を徹底した。</p> <p>(3) 事務処理に係る仕組を改善し、休暇や旅行等庶務事務システムへの入力は、漏れやミスのないように、確実に速やかに行うように努めた。</p> <p>(4) 外部講師を招聘し「教職員としての一体感の醸成・風通しのよい職場づくり」についての研修を行った。</p> <p>(5) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「風通しの良い職場づくり（適切な業務執行体制の整備）」についての研修を行った。</p> <p>※ 事故はゼロだった。</p>	A
9	財務事務等の適正執行	財務事務等に係る事故ゼロを目標とする。	<p>(1) 全職員に私費会計基準を周知徹底し、透明性を確保するとともに、適正な処理に努めた。</p> <p>(2) 私費会計担当者を対象に、会計処理が適正になされているか定期監査等の機会に確認した。</p> <p>(3) 不祥事防止職員啓発・点検資料を用いて「適切な私費会計の取扱い」についての研修を行った。</p> <p>(4) 私費に係る財務事務調査結果について、職員全体で共有し、改善を図った。</p> <p>※ 日本スポーツ振興センター災害共済給付金の誤支給が1件発生した。原因と再発防止策を全職員で共有し、再発防止の徹底を図った。</p>	B

※ 達成状況の評価区分

- A…行動計画に対して、ほぼ達成またはそれを超える状況になった。または、数値目標の80%以上だった。
- B…行動計画に対して、計画通りの状況ではないが、一定の成果が上がっている。または、数値目標の50%以上80%未満だった。
- C…行動計画に対して、計画通りの状況にはならなかった。または、数値目標の50%未満だった。

3 学校長の意見

令和4年度新羽高等学校不祥事ゼロプログラムの行動計画に基づいて、不祥事防止会議を位置付け、不祥事防止研修会等を効果的に実施するとともに、朝の打合せ等において、新聞報道等の事例を紹介したり、教育長通知や関係資料を周知したりするなど、職員への注意喚起を行い、事故・不祥事の未然防止に取り組んできた。

結果は、九つの取組課題のうち、評価Aが六つ、評価Bが三つとなった。事故・不祥事防止について一定の成果をあげることができたといえるが、取組課題の5「定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱い、入学者選抜に係る事故防止」におけるヒヤリハット事例、取組課題6「個人情報の管理、セキュリティ対策」における誤送付、取組課題9「財務事務等の適正執行」における誤支給が発生したことについては、大いに反省するところである。

次年度も、不祥事ゼロプログラムの行動計画に即して、不祥事防止会議や各種研修会を実施するとともに、職員全体のコミュニケーションを密に図り、風通しのよい職場環境を構築し、事故・不祥事を出さない職場づくりに学校全体で取り組む所存である。

4 令和5年度に取り組むべき課題

次の5項目を重点課題として取り組む。

- (1) 職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止
- (2) 体罰、不適切な指導の防止
- (3) 定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱い、入学者選抜に係る事故防止
- (4) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策
- (5) 財務事務等の適正執行